

図工部 活動報告

1 活動のねらい

感性を働かせ生き生きと創造活動をする子どもの育成を目指し、図工の指導法についての研修や実技講習を通して指導力の向上を図る。

2 活動の内容

(1) 活動計画立案と実践上の情報交換 (5月)

(2) 長谷川重雄様(村上市立平林中学校長)による「学校教育における感性を働かせる造形的な創造活動」の講話と「巨大卵をつくろう」の実技講習(8月)

[概略]

① 講話

子どもは発達段階や個人差で世界の見え方や概念の表現の仕方が大きく異なるものであり、過去に認められ納得した表現も、今日はすでに興味がなく違う表現を求めている。我々指導者は、活動ができる時間的・空間的な環境や用具を揃えること、表現したくなる仕掛けをつくること、子どもの表現の面白さや工夫を褒める・励ます・広げるなどを心掛けていくことが大切であるという講演内容であった。

また、「著作権」を守ることの大切さについても教えていただいた。



② 実技講習

色付けした石膏をゴム風船に流し込み、巨大な卵型のオブジェをつくった。ゴム風船を回しながら均一に石膏を付けていく工程では、ゆっくりと回す中で、石膏の発する熱の温かさを感じながら「どんなものが生まれるかな」「何を生み出そうかな」と夢や思いを込めつつ、つくる楽しさを味わうことができた。

(3) 野村宏毅様(近代美術館学芸課)による「つんで並べて形作り」の実技講習(8月)



様々な色・形の型抜きした後の廃材の型紙チップを用いて、自由な発想で色や形を組み合わせ積んだり並べたりしながら自分なりのオブジェをつくり、いわさきちひろの絵の技法を学び、カードをつくったりした。出来上がった作品を互いに鑑賞し合い、それぞれの表現の良さを見付けあった。

3 成果と課題

(1) 成果

① 児童が感性を働かせながら伸び伸びと造形活動を楽しむためには、「表現したい」という気持ちにさせる働きかけや仕掛けをつくることが大切である。「巨大卵をつくろう」では、2年生の絵の題材の導入として、卵をつくる作業の中で、「どんなものができるだろう」というワクワク感を体験することができ、さらにできた卵を目を前にして、「ここから生まれてくる生き物」を感性を働かせながら発想することができた。発想を膨らませるには大変有効な教材であった。

② 自分の発想を実現させるためには、いろいろな技法を体験し、その発想を実現するためにぴったりの表し方や技法を自分で選択でき自由に使えることが大切である。そして、そのような様々な技法を児童に体験させるために、教師自身の技法の蓄積が不可欠であり、今回の実技講習会はその良い研修の場となった。

(2) 課題

実技講習会で学んだ内容を実際に授業の場で生かすために、授業研究や研究授業の場も設けるとより有効であった。